

疑問義を表わす“多”に関する一考察

—— 漢語方言との比較を兼ねて ——

野 田 寛 達

1. はじめに

《現代汉语词典（第6版）》（以下《現漢》）333頁では、“多”に9つの意味項目を挙げている。その中で、従来の研究では特に疑問義を表わすもの（“这幢楼有多高？”）と感嘆義や程度の高さ（“他对你多好啊！”）を表すものに研究が集中している。前者に関しては、黎锦熙 1992 [1924]、丁聲樹 1961、呂叔湘 1985・1999、邢福义 1996等様々な文法記述書で記述され、研究論文としては張金艷 2006、刘春卉 2007、野田 2014等が論じている。そして、後者に関しては、これらの文法記述書をはじめ研究論文としては程美珍 1982、郎大地 1987、楊達 1991、杜道流 2004、石毓智 2006、杨玉玲 2012、張金艷 2006、郑章 2012、刘鹏 2012a・2012b・2012c・2013a・2013b、野田 2013、揣迪之・徐一平 2014等で論じられてきた。過去の研究を概観すると感嘆義を表わす“多”に比べ、疑問義を表わす“多”に関する議論は未だ十分になされているとはいえない。これは恐らく“多”の表す機能が“程度を尋ねる”という分かりやすいものだという認識からだと推察されるが、“多”自體を扱ったものに加え、間接的に関連する研究も合わせて考えると、実際は“多”の機能はそれほど単純なものではないことがわかる。以下では、疑問義を表わす“多”の機能に関して再考した後、方言資料と比較することで疑問義“多”の表す意味の廣がりに関して考察する。

2. 疑問義の“多”の機能再考

2.1 従來の説明：「程度を尋ねる」と「主に積極的な意味を表す形容詞と用いる」

上述のように、疑問義の“多”に関する研究は少なく、その説明の多くは文法記述書や辞書に見られる。以下、代表的なものを見てみる；

黎锦熙 1992 [1924]《新著國語文法》(145頁)“問數量：多，(多么，多少)，好，几（都要加于一切表形體的性状形容词之上）”

朱德熙 1982《语法讲义》記述なし。

侯學超 1998《现代汉语虚词词典》(178頁)“询问程度。用于问句。答话应是數量短语。形容词也是指‘大’的：大、长、远、厚、久、高、深等”

吕叔湘 1999《现代汉语八百词增订本》(186頁)“用在疑问句中，询问程度、數量。”

刘月华 2007《实用现代汉语语法（增订本）》記述なし。

张斌 2010《现代汉语描寫语法》記述なし。

《现汉》(333頁)“用在疑问句里，问程度或數量。(中略)注意：大都用于积极性的形容词，如‘大、高、长、远、粗、宽、厚’等等。”

朱德熙 1982、刘月华 2007、张斌 2010には疑問義の“多”に關連する記述がない¹⁾。その他の文法記述書の説明には、機能としては“询问程度、數量”（程度、數量を尋ねる）とし、使用する對象としては“形容词也是指‘大’的”（形容詞の中でも“大きい”量を表わすもの）、“用于积极性的形容词”（積極性のある形容詞に用いる）という制限を擧げている。この他、相原等 1996：116、杉村 1998：129、瀬戸口 2003：280、丸尾 2010：243などの文法書や角川書店『中國語大辭典上』（1994：804）、白水社『中國語辭典』（2002：327）、東方書店『東方中國語辭典』（2004：338）、小學館『中日辭典大活字版第2版』（2006：382）、講談社『中日辭典第3版』（2010：440）、大修館書店『中日大辭典（第三版）』（2010：451）などの辞書もほぼ同様の説明であった。

一方で、解説には“大都”（大方は）という言葉等が使われていることから、「積極的な形容詞に用いる」という制限が絶対ではないことを表わすが、以上のように一般に知られている著作にはそれに関して述べられたものは見当たらず

ない。だが、実際の例文では積極性を表わす形容詞以外の使用は頻繁にみられる；

(1) 你知道0.007毫米有多薄? (CCLコーパス)²⁾

(2) 一根头发有多细? (百度)

(3) 钻石低价到底有多低? (百度)

“薄、细、低”は消極的な意味を表わす形容詞である。以下、本稿では疑問義の“多”の機能に關し關連する先行研究をもとに考えてみたい。

2.2 疑問義の“多”の機能

上述のように、疑問義の“多”自身の機能に關する研究は少ないが、形容詞の性質に關する研究において、議論に付隨する形で“多”が出現する場合がある。そこから“多”の機能が垣間見える。

黄國營・石毓智 1993、王晓彭 1995、石毓智 1996、沈家煊 1999、石毓智 2006等は“多”との共起關係を形容詞の分類の基準の一つに利用した研究である。黄國營・石毓智 1993: 401では、L1 “最不～”、L2 “十分不～”、L10 “十分～”、L11 “最～”等の程度副詞形式L1～L11で修飾できるか否かと、“N + A + 吗?” (=是非問句)、“N + A + 不 + A?” (=選擇問)、“N + 有多 + A?” (=特指問)という3つの異なる疑問文に出現する際の有標と無標表現の違いという2つの基準から、程度性を持つ性質形容詞を、“干净”タイプ、“大小”タイプ、“冷热”タイプの3タイプに分類した。石氏の研究の中心となっている觀點は形容詞の疑問句における有標と無標の違いであり、例えば、“高”と“低”に關して“問句‘这棵树有多高’中的‘高’的询问范围包括了从下到上的任何高度，即也包括了‘低’的高度，这时的‘高’就表现为无标记的；而‘低’用于相同的问句时其询问范围只是一个较小的高度，被包括在‘高’的询问范围之内，这里的‘低’就是有标记的。”（「疑問文‘这棵树有多高’では‘高’の尋ねる範圍は下から上までのあらゆる高度を含んでおり、すなわち‘低’の高度も含み、この時の“高”は無標となっている。だが、‘低’が同じ疑問文に使われたときその疑問の範圍は比較的小さい高度のみで、‘高’の疑問の範圍内に含まれており、ここでの‘低’は有標である。）と述べている。黄・石氏の研究は創意に富むものであるが、王晓彭 1995はこの觀點に對し《現汉》（版數不明）を引用し批判して

いる。王氏によれば、“高”の意味は以下の2つに分けられている；

① “从下向上距离大；离地面远（跟‘低’相对）”（下から上への距離が大きいこと）

② “高度”（高さ）

《现汉》（第6版、429頁）にも同様の説明が確認できる。そして、王氏によれば、早くは呂叔湘 1962：490、丁聲樹 1961：80、邢福義 1991：31等の先人たちもこの2つの性質の違いを認めており、①が典型的な形容詞なのに對し、②は名詞に近いとされる。つまり、2つの異なる性質を持つ“高”が“这棵树有多高？”に自然と2つの異なる意味を持たせていることになる。“高”が①の意味で使用される時、話者はこの木が高いことを知っていて、相手にどのくらい高いのかを聞いているから、“这棵树高到什么程度？”という表現に言い換えられる。一方②の意味で使われる際には、話者は木が高いのか低いかわからず、單に木の高さを知りたいので、“这棵树的高度是多少？”という風に言い換えられる。表面上は同じフレーズだが、實際は2つの異なる意味で構成されていることがわかる。そして、王氏によれば、黃・石氏は性質形容詞“高”について議論しているように見えて、實はこの2つの性質の違いを無視し、名詞性の②の意味のみを對象にしており、それに基づき“高”を高いことから低いことまで全てを含む無標の性質形容詞の代表例としていることに問題があるとする。“高”は本來①性質的に高いこと、②高さの2つを持ち、“低”は①性質的に低いことのみの意味しか持たないにもかかわらず、②高さと①低いことを比べ、“高”は無標の形容詞であるとしているが、“高”は①高いことという有標の意味も持ち合わせているため、“高”と“低”に對して不平等な比較を行っていることになる。そして、王氏は、實は“高”のような兼類性を持つ形容詞は他に“长、重、深、宽、粗、厚、密、浓、快、远”³⁾等少數の閉じたグループを形成しており、このような語の持つ名詞性のある意味②を乙、形容詞性の意味①を甲とすると、上記の三種類の疑問形式への出現状況が異なるとする。つまり、形容詞性の甲は3種類のいずれにも出現できるのに對し、乙は“N+有多+A？”（=特指問）にしか出現できない。以上のような觀點は王氏の批判を受けたのち、石毓智 1996にも採用され①を「相對量」、②を「絕對量」と呼んでいる（13頁）。沈家煊 1999：152では、形容詞が“有多A？”の

Aの位置に出現する際の意味の違いに注目し、それを“偏向問”（高いことを知っている上での“有多高？”）と“中性問”（高さを知らない状況での“有多高？”）とし、“大小類”、“好坏類”、“冷热類”の3類に關し、“大小類”のうち“大、重、長”等“正面詞”は“中性問”、“小、轻、短”等の“反面詞”は“偏向問”、“好坏類”と“冷热類”は全て“偏向問”であるとした。加えて、注釋部分（194頁注3）に、“有多大？”等もストレスを“多”に置けば“偏向問”になると付け加えている。以上の議論の内容を基に“有多A？”の角度からまとめ直すと以下のようになる：

表1 形容詞の分類と“有多A？”の表す意味の關係

結びつく形容詞の分類	“有多A？”の表す意味
1) 大小类正面詞：大、重、长等	名詞性乙：“中性問／絶対量”、 形容詞性甲：“偏向問／相對量”
2) 大小类反面詞：小、轻、短等	形容詞性甲：“偏向問／相對量”
3) 好坏类	形容詞性甲：“偏向問／相對量”
4) 冷热类	形容詞性甲：“偏向問／相對量”

以上の議論の中心は形容詞の性質及び分類であるが、疑問詞“多”の機能を考えるうえでも重要な示唆を與えてくれる。黄・石氏、王氏、沈氏の指摘を逆に“多”の角度から表1のようにまとめてみると、“多”は結びつく形容詞に應じて“中性問／絶対量”と“偏向問／相對量”という2つの特徴を持ち、その程度を尋ねるのが“多”の機能であるというふうにも理解できる。つまり、先人が“高”を形容詞性と名詞性にわけているのと同様に、その兩方と結びつく“多”もまたそれにより二面性を持つ言葉であることがわかる。だが、前節からわかるように従來の“多”に關する説明は「程度を尋ねる。」と「主に大、高、長など積極的な意味を持つ形容詞を修飾する」であり、結びつく對象としては太字で書かれた表1の1) 大小类正面詞：大、重、长等の部分しか扱っていない。また意味に關しても、對象を名詞性乙に限った單なる分量や程度という言葉のみで、以上の意味上の區別に關して何の説明もない。形容詞“高”に關しては2つの意味を立てている《現漢》でも“有多A？”の表すこの2つの違いを形容詞の性質の差に求めており、“多”のこの現象に關する説明はない。刘春卉 2007：83は河南確山方言で“中性問／絶対量”と“偏向問／相

対量”でそれぞれ“有多A儿”と“有多A”という使い分けが存在すると指摘した。そして、“由于中性问的使用频率和范围都大大超过偏向问，它们表示偏向问的事实经常被忽视”（中性疑問文の使用頻度と範囲は偏向疑問文よりもずっと大きいために、それら（多+A）が偏向疑問文を表わすという事実は注意されずにいた。）と述べる。この言語事実からも、疑問義の“多”の性質を述べる際に、この機能の違いは無視できない。

2.3 “多”の機能の名稱

以上で、“多”の機能に關しては明らかになった。ここでは、“多”の表す2つの機能にふさわしい名稱を考えてみたい。まず沈家煊 1999のいう偏向問と中性問が考えられるが、これは疑問文の表す疑問の範囲から考えた疑問文の性質への名稱で、“多”自體の性質に關する名稱としては適當ではないように思う。名稱から實態が推測しづらいのも難點である。次に石毓智 1996の“相對量”と“絶對量”であるが、石毓智 1996：13は兩者の定義を“相對量指的是在某一特定参照系里程度的高低隨着参照系的改变而变化。程度词代表的是一种典型的相對量。絶對量代表的是一个客观量，它不因参照系的不同而改变。絶對量在语言中通常由數词和度、量、衡单位组成的结构來表示。”とするが、絶對、相對という名稱は言語學の多くの場面で登場するため、曖昧でその性質が傳わりにくい。例えば、程度に關しては、王力 1985：131、马真 1999：82の比較文に用いることができるかどうかという基準からの程度副詞を絶對程度（很、有點、挺等）と相對程度（更、比较、稍微等）の分類が代表的なもので、異なる2つの現象にほぼ同じ名稱を使用することになる。

本稿では“偏向問／相對量”の機能に關し、一般的な性質形容詞は自由に“多”と用いることができることから、「性質程度」という名稱が適當であると考え。そもそも性質とは對象の違いによって異なるものである。例えば、象の鼻は長いという特性を持つが、人間の鼻はその性質を持たない（少なくとも我々はそう認識している）。そして、その性質に關して程度を尋ねることは對象がその性質を備えている（と我々が認識している）ことが前提條件となる。それが疑問文としての“偏向問”の本質であろう。そして、“中性問／絶對量”に關しては、張國宪 2006：135は“长—短、宽—窄、高—矮”等の閉じたグルー

ブの形容詞に關して“表述事物的空間性或質量”と定義づける。この説明は前節で述べたこれらの形容詞の2面性を意識したものと考えられるが、このうち前者の“空間性”が本稿の考える対象である“大小类正面詞：大、重、長等”⁴⁾の特性を表わしている。また、日本語の形容詞に關し、西尾 1972 : 69では、おおきい—ちいさい、ひろい—せまい、とおい—ちかい等をまとめて「空間的な量」を表わす一類としている。このことから、“多”の“中性問／絶對量”に關しては「空間量」という名稱がふさわしいと考えられる。空間量が中性疑問文になるのは、全てのモノは空間に一定の體積を占めて存在しているため、それを尋ねる場合特にモノによって限定される何らかの性質を前提としないからだと考えられる。

3. 方言資料を用いた考察—概念間の關連性

3.1 「空間點、空間量、時間點、時間量」の概念空間と意味地圖

本稿が「空間量」という名稱を使用するのにはもう一つ理由がある。野田 2014では多數の漢語方言に對し普通話の“几、多少、多”に相當する疑問詞の機能を調査し、その機能を「數（几个苹果？/多少书？）」、「量（喝多少？）」、「時間量（多久？）」、「程度（多高？/多漂亮？）」の4つに定義し、相互の關連ネットワークを概念空間として構築した。野田 2015では、疑問詞の「指別（哪个？）」、「地點（哪里？）」、「人（谁？）」、「類別（什么水果？）」「事物（吃什么？）」、「時點（什么时候？）」に關し、多數の方言に關し調査を行い、概念空間を構築した。これらの研究では程度の機能から空間量を獨立させてはいないが、空間量とした場合、もう一つの時間量とのバランスもとれる。周知のように、疑問詞は“谁”が「人」、 “什么”が「物事」というように、ontological category と呼ばれる客觀世界を認識するために最も根本的となる概念に關連する言語成分である。概念の分類は學者により様々で Jackendoff 1983 : 51は ontological categoryを Thing、Place、Direction、Action、Event、Manner、Amount の7つに分類したが、Haspelmath 1997 : 21は不定代名詞の機能を基に、Person (somebody等)、Thing (something等)、Place (somewhere等)、Time (sometime等)、Manner (somehow等)等に分ける。本稿では疑問代名詞の機能を基にすると、PlaceとTimeをそれぞれ「空間點（地點）」（哪里）と「空間量」（多高/多長等）、

「時間點」(什么时候)と「時間量」(多久)に分類できると考える。管見の限り、疑問詞の機能に關しての研究で、「時間」を「時間點」と「時間量」に分けるものはよく見られるが、「空間」を「空間點」と「空間量」に分けるものは少なく、言語學で「空間」というと「“在”は“在學校”と“在星期天”のように空間と時間どちらにも使われる」のように、往々にして「空間點」を指すことが多いように思う。前節での議論からわかるように「空間量」はより注意されにくい存在だが、その概念は客觀世界に確かに存在する。このように疑問詞全體の機能との關連性を考えれば、本稿の枠組みの中における“多”の機能に關しては、“中性問”“偏向問”“相對量”“絕對量”等の名稱よりも「空間量」がふさわしいと考えられる。

では、この「空間點、空間量、時間點、時間量」4つの機能同士の關連性は一體どうなっているのか? 上述のように野田 2014・2015では關連する「地點(=空間點)」、「時點(=時間點)」、「時間量」は扱ってはいるものの、「空間量」を加えた4つの空間、時間に關連する概念が具體的にどのような概念空間を構築するかという點は明らかにされていなかった。そこで以下、方言資料を基にこれら4概念の概念空間を構築する。今回の調査では71方言の資料を利用した。以下地域ごとに分類した。

表2 利用した方言資料の分類

方言	方言數	地名(下線は省名、直轄市名等)
北方官話	16	山東: 微山、 <u>山西</u> : 長治/長子/大同/定襄/ <u>汾陽</u> / <u>晉源</u> /樹掌、 <u>陝西</u> : 鳳翔/ <u>合陽</u> /神木/吳堡/西安、 <u>河南</u> : 光山、 <u>四川</u> : <u>成都</u> 、 <u>雲南</u> : 廣南
南方官話	10	<u>江蘇</u> : 呂四、 <u>安徽</u> : 來安/ <u>安慶</u> 、 <u>湖北</u> : 丹江/恩施/天門/武漢、 <u>湖南</u> : 桂陽、 <u>貴州</u> : 卒節/ <u>遵義</u>
吳方言	7	<u>江蘇</u> : 吳江/ <u>蘇州</u> 、 <u>浙江</u> : 廣豐/海門/ <u>天臺</u> 、上海: 崇明/ <u>上海</u>
湘方言	16	<u>湖南</u> : 柏祥/長沙/辰溪/衡山/衡陽/漣源/隆回/屢底/祁陽/邵陽/雙峰/綏寧/新化/湘潭/溆浦/益陽
贛方言	6	<u>江西</u> : 豐城/蘆溪/ <u>南昌</u> / <u>泰和</u> / <u>宜豐</u> / <u>廣豐</u>
客家方言	4	<u>福建</u> : <u>連城</u> / <u>清流</u> 、 <u>廣東</u> : <u>梅县</u> 、 <u>江西</u> : <u>石城</u>
粵方言	8	<u>廣東</u> : <u>廣州</u> 、 <u>廣西</u> : <u>北流</u> /賓陽/ <u>賀州</u> / <u>藤縣</u> / <u>新立</u> / <u>玉林</u> /蔗園
閩方言	4	<u>福建</u> : <u>福州</u> 、 <u>廣東</u> : 汕頭、 <u>海南</u> : 黃流/屯昌

本稿では以上の計71方言の資料を調査したが、時間量と空間量に関しては、文献によっては記述が缺けているものも多く見られた。以上の表では4機能全てに對し記述があった23方言を太字で示した。以下これらの23方言の疑問詞を擧げることにする。音聲表記のないものは中國語のみの表記とした。他の機能と共通する形態素は太字で示した；

表3 記述がそろった23方言の機能状況

方言名	空間點	空間量	時間點	時間量	出典
1 山西汾陽	xəʔ11təu324 何地	tsəŋ324 怎 tsəŋ324lei22 怎來 təu324lei22 多來 tsəŋ324ler324 怎來儿 təu324ler324 多來儿	xəʔ11xuer324 何會儿 ʂəŋ53xuer324 甚會儿 təu324xuer324 多會儿	多长时间	宋秀令 1994
2 山西晉源	a11ləʔ2 啊嘞	tv11lai11 多來	səŋ35sɿ11xu35 甚时候 a35iəʔ2sa11 sa11-21 啊一霎霎	tv11lai11sɿ11 多來时	王文卿 2007
3 陝西合陽	la52 哪 la52ta0 哪搭 la52ŋə0 哪岸	to31 多	tei31naŋ0 几囊 to31xu0 (tsɿ0) 多會 (子) so55sɿ24xu0 啥时候	多久	邢向东 蔡文婷 2010
4 四川成都	nar3/nər3 哪儿 na3ni3 哪里 nər3gən1tɕian2 哪儿跟前	xau3 好 to1 多	na3tsən4 哪阵 na3xər1 哪下儿	xau3tɕieu3 好久 to1tɕieu3 多久	谢光跃 2012
5 安徽安庆	哪落里 哪落块 哪块	几、好	哪门早儿 么时候 么會子 么早儿	几长时间	鲍红 2007

方言名	空間點	空間量	時間點	時間量	出典
6 上海	sa34-33di23-55 fã53-21 啥地方 fia23-21li23-55 鞋里 fia23-21li23-55 tAʔ55-22 鞋里搭	几忽	sa34-33zən23-55k 啥辰光 几时	几忽辰光	徐宝华 汤珍珠 1988
7 浙江天臺	no214te31 哪【te31】 no214khuei55 哪块	zau35吨 （“多少”的缩略）	ki325zɿ224 几时 zau35tɕiaŋ55 吨倡	Tou33dziaŋ224 zɿ224-33kE33 多长时间 zau35tɕiaŋ55 吨倡	戴昭铭 2006 戴昭铭 2013
8 江西廣豐	踩里 踩块	kei52 几	咋时间 咋时候 几时几	几长时间	徐继磊 2009
9 江西宜豐	许块	几	什辰间 几辰间	几久	邵敬敏等 2010
10 江西石城	na453 哪 na453li 哪里	ki31 几	ki31sɿ4 几时 na453xən53tə 哪阵嘢 sən453məts ‘ɔŋ24kan453 什么场间 sən453məts ‘ɔŋ24tsuŋ453 什么场中	ki31kiəu31 几久	邵敬敏等 2010
11 江西南昌	‘lali’ 哪里 ‘la’ 哪	‘tei’ 几	‘tei·sɿkan 几时间 ‘tei·ts’ɔŋtsuŋ 几场中	‘tei’ ‘teiutsɿ 几久 （子）	张燕娣 2007
12 江西泰和	lai211ton33 哪当	tei42 几	lai211teiu42 哪久 几时间 闹得时间	几久	李如龙 张双庆 1999

方言名	空間點	空間量	時間點	時間量	出典
13貴州遵義	哪里、哪點儿、 哪壕儿、哪塘 儿、哪干塘儿、 哪塘點	好	朗呃时候儿 哪个时候 哪阵（儿） 好久	好久、好多时 间、好一阵、 好一歇	胡光斌 2008
14福建福州	tie24næ33 底呢 tie24-53oy?24 底（蜀）角 tie24-53lo21loy2 13 底（蜀）对 tie24-53lo21 βeiŋ55 底（蜀）边	nuo53uai242 佬（夥）	mie21no53siŋ21 ŋau242 乜乜辰候 mie53ŋau242 乜候	佬夥行	甘于恩 2010 李如龙 张双庆 1999 邵敬敏 2010
15福建連城	nai11kau35 tsai51 那角（子） nai11ti35tsai51 那滴（子） nai11tsiuə35 那迹	ki51 几	nai11kiau51 那久 nai11ŋə55tsie35 那时节 ŋə3mai11ŋə55 tsie35 是物时节	ki51kiau51tsai51 几久（子） ki51tɿˊə55ə35 ŋə55ka3 几长个时间	项梦冰 1997
16福建清流	lə33 (kuə) 22li24 哪（块）里 lə24tsia?5 哪迹	ki24 几	lə33khe?5li24 哪刻里	几久	项梦冰 1999
17廣東梅縣	nai52le22 奈里 ŋai52le22 艾里 nai53tit1 奈滴 ŋai52tit1 艾滴	kit1 诘	kit1sɿ22 诘时 nai52sɿ22 奈时 ŋai52sɿ22 艾时	kit1kiau31 诘久	李如龙 张双庆 1999
18廣東廣州	pin55tou22 边度	kei35 几	kei35si21 几时	kei35nəi22 几耐	詹伯慧 1988 邵敬敏 2010
19廣西北流	【sin35】 【sin35p'əŋ35】 【sin35】几 【sin35】呢	几	几时 乜嘢时候	几耐	徐荣 2008

方言名	空間點	空間量	時間點	時間量	出典
20廣西賀州	u55lu55 乌堵	ki55 几	ki55ji 几时 ki55ji35hou35 几时候 suo35ji35hou35 嗦时候 u55ji35 乌时 u55jon214 乌瞬	uən55kou55] 搵久	刘宇良 2011
21廣西玉林	ji54li21 施里 lu21leŋ32-35 路怜	ki21 几	ki21ji35 几时	ki21tfou 几久 ki21noi35 几耐	梁忠东 2010
22廣西藤縣	jin53 扇 jin53pok55 扇卜 jin53di55 扇啲 jin53meŋ55 扇覷	ki55 几	ki55ji231 几时	ki55tfou22 几久	唐一萍 2012
23廣西新立	na24ni33 哪疑	kei24 几	kei24ji33 几时	kei24nai42 几耐	黄昭艳 2011

この23方言の材料を基に概念空間を構築する。以上の23方言の疑問詞を観察すると、異なる機能同士で頻繁に同じ形態素を含む形式で表されることが傾向として見えてくる。以下の表では関連性がわかりやすいように空間量を右端に置き、方言の順番も形態素を共通とするタイプに應じて並べ替えた。太字は2つの異なる機能を全く同じ疑問詞で表すものである。共通する形態素を含まない場合は空白とした。

表4 機能の関連性と方言分類

方言名	空間點	時間點	時間量	空間量	出典
A (9) : 時間點、時間量、空間量に同じ形態素を用いるタイプ					
3 合陽		to31 多	to31 多	多	邢・蔡 2010
7 天臺		zau35tɕiaŋ55 咍倡	zau35tɕiaŋ55 咍倡	zau35 吨	戴昭铭 2006 戴昭铭 2013
8 廣豐		几	几	kei52 几	徐继磊 2009
9 宜豐		几	几	几	邵等 2010
11 南昌		'tei· 几	'tei· 几	'tei 几	张燕娣 2007

方言名	空間點	時間點	時間量	空間量	出典
18廣州		kei35 几	kei35 几	kei35 几	詹伯慧 1988 邵等 2010
21玉林		ki21 几	ki21 几	ki21 几	梁忠东 2010
22藤縣		ki55 几	ki55 几	ki55 几	唐一萍 2012
23新立		kei24 几	kei24 几	kei24 几	黄昭艳 2011
B (5) 空間點、時間點と時間點、時間量、空間量にそれぞれ同じ形態素を用いるタイプ					
6上海	sa34-33 啥	sa34-33 啥 几	几忽	几忽	徐宝华 汤珍珠 1988
10石城	na453 哪	na453 哪 ki31 几	ki31 几	ki31 几	邵等 2010
12泰和	lai211 哪	lai211 哪 几	几	tei42 几	李如龙 张双庆 1999
13遵義	哪	哪 好久	好久	好	胡光斌 2008
17梅縣	nai53 奈 ŋai52 艾	nai52 奈 ŋai52 艾 kit1 诘	kit1 诘	kit1 诘	李如龙 张双庆 1999
C (5) 空間點、時間點と時間量、空間量にそれぞれ同じ形態素を用いるタイプ					
2晉源	a11 啊	a35 啊	tx11 多	tx11 多	王文卿 2007
4成都	na3 哪	na3 哪	xau3 好 to1 多	xau3 好 to1 多	谢光跃 2012
5安庆	哪	哪	几	几	鲍红 2007
15連城	nai11 那	nai11 那	ki51 几	ki51 几	项梦冰 1997
16清流	lǝ33 哪	lǝ33 哪	几	ki24 几	项梦冰 1999
D (1) 時間量と空間量に同じ形態素を用いるタイプ					
14福州			偌	nuo53 偌	甘于恩 2010 李・张 1999 邵敬敏 2010
E (1) 全て同じ					
19北流	几	几	几	几	徐荣 2008
F (2) 時間點と空間量に同じ形態素を用いるタイプ					
1汾陽	xəɿ11 何	xəɿ11 何 təu324 多		təu324 多	宋秀令 1994
20賀州	u55 乌	ki55 几		ki55 几	刘宇良 2011

以上のような関連状況を基に、連続性假説 (The Semantic Map Connectivity Hypothesis)⁵⁾ に照らし合わせると、同様の形態素を用いる概念同士を隣り合うように配置した場合、空間点、空間量、時間点、時間量の概念空間は以下のようになる；

空間点——時間点——時間量——空間量

圖 1 空間点、空間量、時間点、時間量の概念空間

この圖に以上の表のA～Eの6タイプの分布を当てはめると以下の意味地圖が得られる；

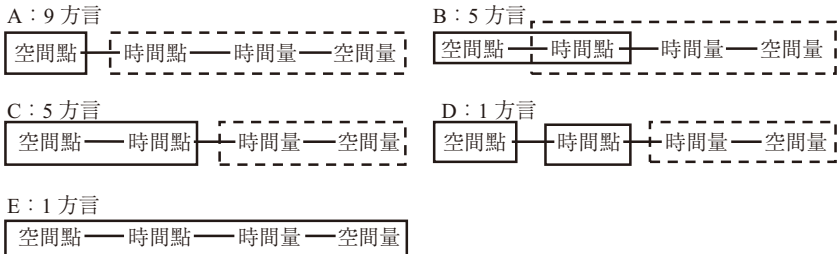


圖 2 空間点、空間量、時間点、時間量の意味地圖

3. 2 概念空間から得た示唆と分析

以上の調査においてFタイプに属する2方言以外では、調査機能が不十分な48方言でもこれらのタイプを外れる分布を示す方言は見当たらなかった。以上のような分布から以下3点の示唆を得た；

- 1) 空間点と空間量は同じ空間に関連する概念であるが、疑問詞を見る限り共通の形態素を用いる方言はない。
- 2) 逆に、時間点と時間量ではA、B、Eの15方言で一致する形態素を用いる。
- 3) 空間点と時間点 (B、C、E = 11方言)、時間量と空間量 (A、B、C、D、E = 21方言) も多数の方言でそれぞれ同様の形態素を用いる。

1)の理由としては、空間点は存在物の存在する位置を表わすという外在的な特徴を表わす概念であるのに對し、空間量が存在物そのものの所有する特徴を表わす内在的なものであるという違いが関連していると考えられ、よって空

間点と空間量に関連性はないと考えられる。

2)に關しては、時間點と時間量の關連性を示していると考えられるが、資料を精査すると、ここには2つの異なる状況が存在する。それは時間點と時間量で全く同じ疑問詞を用いる場合と、一部の形態素を同じくするものである。前者には、16方言のうちでは、7天臺“zau35tɛiŋ55 吨倡”と13遵義“好久”があり、調査項目のそろっていないそのほかの方言では桂阳“ho42tɛiɕu42 好久”（邓永红 2007：21、88）、长沙“zau41tɛ‘iɕu41 好久”（长沙方言词典153页）がある。その他の方言は全て後者に屬する。

前者に關連する研究として、譚耀炬 2000：55は《拍案惊奇》や《二刻拍案惊奇》を調査し“几时”が時間量から時間點へと意味擴張したと指摘した。梁淑珉 2009：89はこの現象に關し、文獻調査の結果多くの文獻で、時點義の“几时”に對し時量表現で答えるという用例が多くみられることを發見した。例えば以下のようなものである；

(4) 公子問：“幾時賣了？”王匠說：“有一個月了。”（警世 24・37b38a）

「いつ賣ったのか？」「一ヶ月になります。」（梁淑珉 2009：89の例12）

これは、梁淑珉 2009：89によれば「いつの時點かを認識するためには發話時は事柄の發生からどのくらいの時量が經過した時點または事柄の發生は發話時からどのくらいの時量が經過した時點であるかという考え方」がなされているからである。これにより時點と時量の關連性を指摘した。



圖3 時間量と時間點的關係

この考え方は、ある事態が起こる時間を知るのにそのまま時間點で答える絶対的な方法と時間量で婉曲的に示す相對的な方法の2つがあることを意味する。例えばクリーニング店で服の受取日を尋ねる場合を考えると；

(5) 客「いつ？/どのくらいで受け取れますか？」—1週間/來週の月曜日です。

ここで、「一週間（時間量）」でも「來週の月曜日（時間點）」でも相手は事態

が起る時間點を正確に知ることができる。ただ、この考えに基づくと、時間點を尋ねられて時間量で答えることも可能なことから、時間點を尋ねる表現が時間量に派生する可能性も残されるが、今回調査した方言にはそのような疑問表現はみられなかった。これは以下のような文中の位置的な制限が関係しているのかもしれない。現代漢語において時間量の疑問詞の位置は時に時間點と一致することがある；

(6) (クリーニング店で客がいつ服を受け取れるのか店員に尋ねる)

客：我（过）多久/什么时候能拿？一店員：一个星期吧。/下星期五吧。

“过”は口語ではよく省略されるため、“多久”の位置は時點を聞く“什么时候”の入る位置と同じになる。こういった一定の条件下での語順の臨時的な一致も、時間量を表わす疑問詞が時間點を表わす疑問詞へ派生する条件を提供していると考えられる。そして、時點を尋ねる疑問詞はこのように臨時的な場合でも時間量の位置になることがない。

同一の疑問詞で時間量と時間點を表す 7 天臺 “zau35tɕiaŋ55 吨倡”/13 遵義 “好久”/桂陽 “hɔ42tɕiəu42 好久”（邓永红 2007：21、88）/长沙 “zau41tɕiəu41 好久”のうち、後ろの 3 方言で“好”は程度を聞く疑問詞との説明があるため、“好久”は普通話の“多久”に相當する構造である。このような語構造からも“好久”はもともと時量を尋ねる疑問詞であり、それがのちに時間點の機能を發展させたことが見て取れ、譚氏と梁氏の指摘する現象が“几时”だけの單獨例でなく、漢語方言でも觀察される現象であることがわかる。天臺方言の“zau35tɕiaŋ55 吨倡”に關しては、戴昭铭 2003：321によれば、“吨”は“吨重”“吨大”等を形成し、本稿でいう空間量や性質程度を尋ねるため、その機能は普通話の“多”に相當する。そして“吨”の由來に關して“‘吨’是个借音字，（省略）‘吨’的意义與表示疑问的‘多少’相當，这使人疑心到‘吨’是由‘多少’两个字音缩合成一个音节后再经聲母浊化，聲调类化为阳去后形成的。在用法上，‘吨’與‘多少’也有些相似可比之处”と“吨”が數量を尋ねる“多少”由來であると考えているが、これも吕叔湘 1985：350の近代漢語の“多少”から“多”への機能移行に關する指摘や、邵敬敏等 2010：95-106にある福州方言の數量を尋ねる疑問詞“偌夥”と程度を尋ねる“偌”に關する使い分けからも納得の行く推論である（野田 2014：31參照）。そして、後ろの音節“倡”に關

しては、戴昭铭 2006：118によると、“倡 [tɛiaŋ55] 也是个借音字，本子尚待考，意义为时间，功夫。”不仅这个音表示时间，它的变音、促化音也表示时间。如‘一倡’ [iʔ5-1tɛiaŋ51] 即‘一会儿’；[tei55・tɛiaʔ] 意为‘刚才’，[køʔ5・tɛiaʔ]、[ka325・tɛiaʔ] 分别意为‘这时’‘那时’。このようにみると、“倡”は北京語の“會兒”によく似ている。“这时”“那时”に相當する [køʔ5・tɛiaʔ]、[ka325・tɛiaʔ] も北京語の“这会儿”“那会儿”と考えることができる。ということは、天臺語の“zau35tɛiaŋ55 咍倡”は、北京方言の疑問詞“多會兒”と同じ語構造を持っていることがわかる。そして、興味深いのは戴昭铭 2006：118によれば、天臺語では時間點以外に比較的短い時間量の意味も表わすことができる⁶⁾。

(7) 尔到咍咍倡了（你到这儿多长时间了？）

《现汉》(334頁)や《北京话词语增订本》(245頁)には“多會兒”に關して時間點の説明しかないが、《北京口语语法》(190頁)には、北京方言では時間點、時間量どちらも表わすことができるという記述がある。つまり“多會兒”と“zau35tɛiaŋ55 咍倡”ともに時間點と時間量を表す機能を持ち、時間量から時間點への機能擴張が起こったと推測される。

最後に、3)に關してだが、空間點と時間點の關連性の強さは周知されている事實である。中國語方言以外では、例えば萱野 2002：355によれば、アイヌ語では時點と空間點をともにネイタ (neyta) という全く同じ疑問詞で表す。空間量と時間量に關しても7天臺方言“tou33dziaŋ224zɿ224-33kE33 多长时间”、連城方言“ki51tɿ ‘ʋa55ə35ʂɿə55ka 3 几长个时间”のような疑問詞からわかるように、空間の長さで時間の長さを表わす周知された現象がある。

今回利用した資料の中でFの1汾陽“təu324多”と20賀州“ki55几”の2方言が上の概念空間から逸脱した分布を示した。張敏 2010：41は言語接觸のような言語外部の影響による言語變化は言語内部の概念を軸とする概念空間の扱う範疇を超え、例外を起こす原因になるとする。これらの方言に關しては個別的な調査が必要になる。

3.3 「數、量、時間量、程度」+「空間點、空間量、時間點、時間量」の概念空間

野田 2014 : 28では、漢語方言資料を用いて、「數、量、時間量、程度」の4概念に關して以下のような概念空間を構築した。



圖4 數、量、時間量、程度の概念空間

圖4の「程度」とは、第2章で論じた「性質程度」と「空間量」をまとめたものである。上述のように普通話で「性質程度」と「空間量」は同じ形式で表されるため關連性が深いと考えられ、本稿が集めた方言でも同様の現象が觀察される。また、空間量と時間量も關連性は高いが、空間量と性質程度のように疑問詞が全く同じ形式というまでには至っていない。そのため、時間量は空間量を介在するかたちで程度と結びつくと考えた方が良さそうである。また、6上海では、數を表す“几”で、時間點“几时”を構成し、量を表す“几忽”を用いて時間量“几忽辰光”を表す。20賀州でも數を“几”で、時間點が“几时”、量が“搵刺”、時間量を“搵久”で表し、同じ形態素を含む疑問詞を用いる。よって數は時間點と、量は時間量と關連性が深いと考えられる。よって野田 2014の概念空間と合わせると、概念空間は以下になる。



圖5 「數、量、時間量、程度」+「空間點、空間量、時間點、時間量」の概念空間

概念空間を構築する際の原則として、概念空間上の機能點として設定される各機能は形式上の區別が觀察されるものに限る。その意味で、上記の方言で形式上區別しない程度と空間量を異なる機能點として設定するには根據不足のように思われ、野田 2014では性質程度と空間量をわけていなかった。だが、漢語方言への調査が進むにつれ、上述の刘春卉 2007の河南確山方言に關する調

査のように、空間量を“（有）多＋形容詞の儿化”というアール化を伴った形式で尋ね、性質程度を尋ねる場合はアール化しないというように、この2概念を形式的に区別する方言があることもわかってきた。また、日本語でも空間量はどのくらいの大きさ？・大きさはどのくらい？を用い、性質程度はどのくらい大きい？というように若干の形式上の違いが観察される。そのため本稿では空間量を單獨の機能点として設定した。

4. 終わりに

以上、空間量を中心に“多”に関連する4つの概念に関して考察を行った。結論は以下のようになる；

1. 普通話“多”には空間量と性質程度の2つを尋ねる機能がある。
2. 多数の方言資料への分析から、空間点と空間量は概念的な関連性が観察されないが、時間点と時間量は関連性が観察される。
3. そして、空間点と時間点、空間量と時間量も関連性が確認される。
4. 概念空間に空間量を追加し、「数、量、時間量、程度」＋「空間点、空間量、時間点、時間量」の概念空間を構築した。

今回の研究では機能同士の派生関係を表わす意味地図の動態化まで論を進めることはできなかったため、稿を改めて論じたい。

注)

- 1) 例えば、朱德熙 1982《语法讲义》では疑問代名詞の章を含めた同著全体で疑問義の“多”が議論にのぼっておらず、“概数词”（三百多本，45頁）と“形容词”（“人很多”，76頁）の“多”に関して述べられているのみである。
- 2) 例文是北京大學CCLコーパス、中國檢索引擎百度より集め、その後ネイティブチェックを行っている。
- 3) 《現漢》には“大（238頁）、粗（219頁）、密（894頁）、浓（956頁）、快（752頁）、远（1604頁）”に関して形容詞用法のみで名詞用法は書かれていない。
- 4) “重”は中國語では“你有多重？=你的體重多少”のように中性的な疑問文になることができるので“空間量”を表す形容詞とした。“重”は一見空間を表すこととは無縁であるようだが、通常大きな體積を表すものは質量的にも重いと推測されるように、空間量と重さとは一定の関連性がある。
- 5) 意味地図の詳しい内容に関しては、中國語では張敏 2010、郭銳 2012等、日本語では野田 2014を参照のこと。

- 6) 戴昭銘 2013: 16によれば、天臺方言の“zau35tɕiaŋ55 吨倡”は、時間點でも比較的近い將來や過去しか尋ねられず、遠い將來や過去は“ki325zɿ224 几时”を使うという使い分けが存在する；

尔几时去过美國？（你什么时候去过美國？）

尔几时还去北京也弗？（你什么时候还去北京吗？）

口个倡吨倡啦？（现在什么时间了？）

* 口个倡几时啦？

参考文献

日本語

相原茂編集 2010『中日辞典（第3版）』講談社。

相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編 2004『東方中國語辞典』東方書店。

相原茂・石田知子・戸沼子 1996『Whyに答えるはじめての中國語の文法書』同學社。

愛知大學中日大辭典編纂所編 2010年『中日大辭典（第三版）』大修館書店。

伊地智善繼編 2002『中國語辞典』白水社。

萱野茂 2002『萱野茂のアイヌ語辞典〔増強版〕』、三省堂。

揣迪只 徐一平 2014「マーカーに注目する中日感嘆文に關する一考察—“多么”型と「なんと」型をめぐる—」、『日中言語研究と日本語教育』第7號34-49頁。

杉村博文 1998『中國語文法教室（第六版）』、大修館書店。

瀬戸口律子 2003『完全マスター中國語の文法』、語研。

大東文化大學中國語大辭典編纂室 1994『中國語大辭典上』、角川書店。

張金艷 2006「「多」の用法についての考察」、『地域學論集』第2卷第3號411-419頁。

西尾寅彌 1972『形容詞の意味・用法の記述的研究』、秀英出版。

野田寛達 2013「現代汉语程度副詞的功能分析及其分类」、『現代中國語研究』15期72-82頁。

野田寛達 2014「數、量、時間量、程度のつながり——意味地圖からのアプローチ」、『中國文學研究』第四十期。

野田寛達 2015「意味地圖からみる疑問詞の形式と機能の關係」、『中國語學』262號168-186頁。

北京・商務印書館／小學館共同編集 2003『中日辞典（第2版）大活字版』、小學館。

丸尾誠 2010『基礎から發展までよくわかる中國語文法』、アスク。

楊達 1991「形容詞の程度を強める副詞について」、『中國語學』238號125-133頁。

熊進 2006「成都方言の文法研究—文法化のアプローチ」、早稻田大學博士論文。

梁淑珉 2009「時量を問う疑問代名詞の歴史的變遷」、『中國語學』256號86-105頁。

中國語

鮑紅 2007 安慶方言疑問代詞體系，《皖西學院學報》第4期20、88-91頁。

- 鲍厚星 崔振华 沈若云 伍云姬编纂 1998《长沙方言词典》，江苏教育出版社。
- 程美珍 1982 关于“多（么）”在感叹句中作状语的问题，《语言教學與研究》第2期42-49页。
- 戴昭铭 2003 浙江天臺方言的代词，《方言》(4) 314-323页。
- 戴昭铭 2006《天臺台方言研究》，中华书局。
- 戴昭铭 2013 天臺话和上海话疑问范畴的比较研究，收于刘丹青主编《汉语方言语法研究的新视角》，上海教育出版社 13-32页。
- 邓永红 2007《桂阳土话语法研究》，湖南大學博士论文。
- 丁聲树等 1961《现代汉语语法讲话》，商务印书馆。
- 杜道流 2004 與“多（么）、太、好”有关的感叹句，《语言研究》第3期。
- 杜道流 2005《现代汉语感叹句研究》，安徽大學出版社。
- 甘于恩 2010 广东四邑方言语法研究，暨南大學博士學位论文。
- 高艾军 傅民编《北京话词语（增订本）》，北京大學出版社。
- 郭锐 2012 概念空间和语义地图：语言变异和演变的限制和路径，『对外汉语研究』第8期96-130页。
- 侯學超 1998《现代汉语虚词词典》，北京大學出版社。
- 胡光斌 2008 遵义方言的是非问句和特指问句，《遵义师范学院學報》第1期20-25页。
- 黃國營、石毓智 1993 汉语形容词的有标记和无标记现象，《中國語文》第6期401-409页。
- 黃昭艳 2011《钦州新立话研究》，西南交通大學出版社。
- 郎大地 1987 受副词“多么、真”强制的感叹句，《语言研究》第一期15-28页。
- 黎锦熙 1992 [1924]《新著國語文法》，商务印书馆。
- 李如龙 张雙庆主编 1999《代词》，暨南大學出版社。
- 李向农 1997《现代汉语时點时段研究》，华中师范大學出版社。
- 梁忠东 2010 玉林话的代词《玉林师范学院學報（哲學社會科學）》第2期，80-83页。
- 刘春卉 2007 河南确山方言中的“（有）多A”與“（有）多A儿”——兼论普通话中被“中性问”掩盖了的“偏向问”，《语言科學》第5期83-88页。
- 刘鹏 2012a “多（么）A的N”式感叹结构探析，《长江大學學報（社會科學版）》第5期110-113页。
- 刘鹏 2012b 基于语料库的“多（么）V～”感叹格式探析，《湖北广播电视大學學報》第8期108-109页。
- 刘鹏 2012c “知道”與“多么”的感叹组配模式考察，《文學界（理论版）》第9期70-71页。
- 刘鹏 2013a 汉语“多（么）A的N”與英语“What-”感叹句式对比，《长江大學學報（社會科學版）》第5期98-101页。
- 刘鹏 2013b “多（么）N”感叹结构探析，《毕节學院學報》第1期86-89页。
- 刘宇良 2011 贺州“本地话”疑问句研究，上海师范大學碩士學位论文。

- 刘月华 2007《实用现代汉语语法（增订本）》，商务印书馆。
- 吕叔湘 1962 关于“语言单位的同一性”《中國語文》11期。
- 吕叔湘 1985《近代汉语指代词》，學林出版社。
- 吕叔湘 1999《现代汉语八百词增订本》，商务印书馆。
- 马真 1999《现代汉语虚词散论》，语文出版社。
- 马真 2004《现代汉语虚词研究方法论》，商务印书馆。
- 邵敬敏·周娟·彭小川·邵宜·甘于恩·曾毅平 2010《汉语方言疑问范畴比较研究》，暨南大學出版社。
- 沈家煊 1999《不对称和标记论》，江西教育出版社。
- 石毓智 1996 形容词的有无标记用法與疑问句式的交错关系，《汉语學習》第5期10-15页。
- 石毓智 2006 现代汉语疑问标记的感叹用法，《汉语學報》第4期14-26页。
- 宋秀令 1994 汾阳方言的指示代词與疑问代词，《山西大學學報（哲學社會科學版）》第1期61-67頁。
- 譚耀炬 2000 拍案惊奇的“几时”，《古籍整理研究學刊》第6期54-59页。
- 唐一萍 2012 藤县话的疑问代词，《梧州學院學報》第4期69-74页。
- 王力 1985《中國现代语法》，商务印书馆。
- 王晓澎 1995 汉语形容词的有标记和无标记现象商榷，《汉语學習》第3期13-16页。
- 王文卿 2007《晉源方言研究》，语文出版社。
- 项梦冰 1997《连城客家话语法研究》，语文出版社。
- 项梦冰 1999 清流方言的代词系统，收于李如龙 张雙庆主编《代词》201-232页。
- 谢光跃 2012 成都话疑问范畴研究，上海交通大學碩士學位論文。
- 邢福义 1996《汉语语法學》，东北师范大學出版社。
- 邢向东 蔡文婷 2010《合阳方言调查研究》，中华书局。
- 徐寶华 汤珍珠主编 1988《上海市區方言志》上海教育出版社。
- 徐继磊 2009 广丰方言代词研究，浙江财经大學碩士學位論文。
- 徐荣 2008 广西北流粤方言语法研究，清华大學碩士學位論文。
- 詹伯慧 張日昇主编 1988《珠江三角洲方言詞匯對照》，广东人民出版社。
- 杨玉玲 2012“可、真、好、多（多么）”字感叹句研究，《现代语文（语言研究版）》第9期73-76页。
- 张斌 2010《现代汉语描寫语法》，商务印书馆。
- 張國宪 2006《现代汉语形容词功能與认知研究》，商务印书馆。
- 张敏 2010“语义地图模型”：原理，操作及在汉语多功能语法形式研究中的运用，《语言學論叢》第四十二辑3-60页。
- 张燕娣 2007《南昌方言研究》，文化艺术出版社。
- 郑章 2012 浅谈感叹句副词“多（多么）”和“真”的差异，《现代语文》11期。
- 中國社會科學院語言研究所詞典編輯室編 2012《现代汉语词典》（第6版），商务印书馆。

周一民 1998 《北京口语语法》，语文出版社。

朱德熙 1982 《语法讲义》，商务印书馆。

Haspelmath, Martin. 1997. *Indefinite Pronouns*, Oxford: Clarendon.

Jackendoff, Ray S. 1983. *Semantics and Cognition*. (Cambridge, Mass: MIT Press)

* *

作 者：野田 寛達

Author：NODA Hiromichi

標 題：关于表示疑问义的“多”——兼论与汉语方言的比较

Title：A Study of the Interrogative Word「多」—Comparing with the Cases in Various Dialects—

摘 要：本文以表示疑问义的“多”为分析对象，对它的疑问功能进行了详细的分析。通过分析发现，其功能可分为“空间量”和“性质程度”两类。此外，本文利用汉语方言资料对71种方言里相当于“多”的疑问词进行了分析，根据语义地图理论构建了空间点、空间量、时间点和时间量的概念空间及语义地图。最后，与野田2014所得出的数量、时间量、程度的概念空间进行合并而构建了6个功能的概念空间。

關鍵詞：语义地图 汉语方言 多 空间量